

BOX展 - 繋ぐ

BOX展 審査講評

日本建築美術工芸協会会員
展覧会委員会選考委員長

帛屋 正

「繋ぐ」をテーマに、30cm立方という限られた空間の中での表現による展覧会。

建築設計、各種素材メーカー、美術工芸作家、学生、その他あらゆるジャンルの人達が普段関わる事のない人達と出会い、刺激し合う事で繋がりを持つきっかけになることを期待しました。38名40点の参加がありました。

BOX展 審査選考について

審査日：2017年4月10日（月） 午後2時より
終了午後4時30分

応募作品：40点※1回目にはまずまずの作品の数・内容・魅力

審査委員：帛屋 正（選考委員長）山際裕史 村井久美
伊藤 愛 中村茂幸

審査経過：審査委員には一切出品作家の名前は伏せて行われた。

第1回目の投票：全作品の40点の中から6点を各審査員記入。開始後1時間の3時に集計。計18点がリストアップ。この中に1票の作品が13点あり、審査委員の話し合いで精査し、計9点残る。因みに3点以上獲得の作品が3点あった。第2回目の投票：9点の作品の中から1人3点選ぶ。この結果6点が残った。尚、満票の作品が1点あり、この作品について話し合いがあり、文句なしに最優秀賞に推挙された。3票獲得の作品が2点あり異議なく優秀賞に選ばれた。佳作には3作品票を獲得したものがあり、佳作賞とした。賞が決定し、始めて受賞者のプロフィールが審査委員に示され最優秀賞に選ばれた久常久美子さんについては審査委員も係の人も知らない方であり、作品は非常に新鮮なものであり見れば見る程に魅力的な作品であった。作家の現実の体験を基に作られたものであり、見る人に何かを語りかけてくるようで素晴らしい作品であった。また作家の熟年齢を感じさせない生き生きとした作品であることも書き添えておく。

審査委員の感想：30cm立法の空間をどのようにとらえるかという点において審査委員の意表を突き驚かすような作品が現れなかったことは残念であったと審査員全員から異口同音に発せられた。

BOX=30cm立法をどう解釈し、何をどう表現するかが問われたコンペティションであったが、審査員一堂に自分を



会場風景



驚かすような作品がなかったことに一抹の不満があった。BOXの中にあるものが飛び出そうとするのか、はみ出すのか、また縮まって消えようとするのか、はたまた得体のしれない微妙に動くものとか、見る人を不安に陥れるのか等々いろいろな考えがあるだろう。アーティストは常に自分と向き合い楽しいもの、気持ちの良くなるようなもの、何かえも言えないものとかを想像しないのだろうかと思ってしまう。

日頃、作家が制作・試行する活動の域を超えて敢て新しいことにチャレンジしてほしいと思う。

最優秀賞	久常久美子（一般） 「再生」
優秀賞	新實広記（会員） 「Vesel ベッセル」 大河内久子（会員） 「風の通り道」
佳作	(株)フィールドフォー・デザインオフィス 榊竜太（会員） 「うち-そと」 田中ショウ（会員） 「太陽の職人（スカラベ）」 小野寺恵美（会員） 「段を持つ箱一誘う土」

● 最優秀賞



久常久美子 (一般) 再生

ワイヤー、綿糸、綿布、原毛

突発的な事故で感じたこと。前方から歩いて来た人と腕が触れ、転びそうになった時、相手方が手をさし出して下さり、転倒せずにすんだ。一瞬、何がおこったか。

腕から出血しおどろき、眼で捉えた感情を眼球と網膜側に表現しました。その後治療の結果も良く、再生能力のある皮膚に感謝している。

● 優秀賞



新實広記 (会員) Vessel

ガラス

ガラスの起源を語るときに引き合いに出されるのがプリニウスによる「博物誌」の中の話です。紀元前数千年前に「ひとりの船乗りが東地中海の海岸で炊事をするのに炉を築こうとして、船荷の炭酸ソーダの塊を用いたところ、炉の熱によってソーダの塊と海岸の白砂が偶然混ざり合って溶解し、世界で最初のガラスが誕生した。」この説が事実かどうかは誰も知ることはできませんが、私はそんな船乗りの初めてガラスを目にしたその瞬間を想像しながら作品制作をしています。

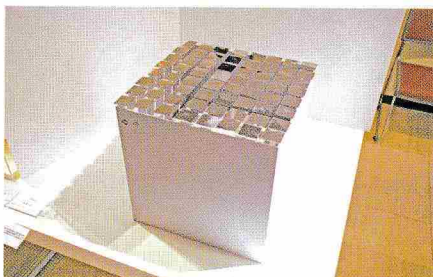


大河内久子 (会員) 風の通り道

ステンレス

ステンレスのキリッとした素材感で、風の通り抜ける空間を感じてほしいです。

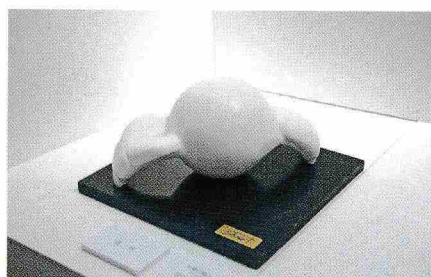
● 佳作



株式会社フィールドフォー・デザインオフィス (会員)

うち-そと

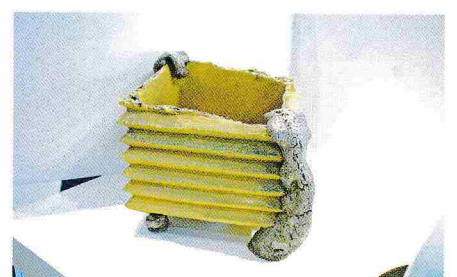
フィールドフォー・デザインオフィスは、インテリアとランドスケープとが密度の高い連携をして、建築の内外をシームレスに“繋ぎ”ます。当展では、それによって創造される豊かな環境空間を、ひとつの箱を使い表現しました。



田中ショウ (会員) 太陽の職人 (スカラベ)

大理石

古代エジプトで太陽神と同一視されていたというスカラベ。太陽とまでは言わなくても、何か大切なものをひたむきに、孤独に、様々な困難を乗り越えて糞を転がす姿は、どこか職人仕事を連想させる。



小野寺恵美 (会員) 段を持つ箱 - 誘う土 -

陶土

四角い箱は壁を持つ事で底を覗き込むと不思議な世界が広がっている様に見える。外側からの印象とは異なるその空間を、外へいざなうのか、内へと誘うのか一繋げようとする土塊は銀彩を施して対角に配した。段がある外観の固いイメージや、軽やかに内側に入りこもうとする柔らかな形状の様に、土の多彩な表情でテーマを表現した。

BOX 展応募作品



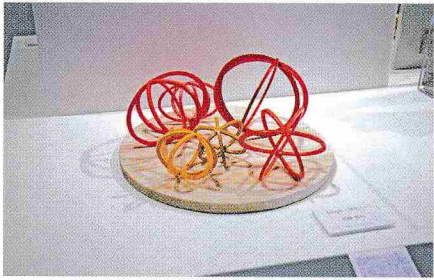
吉田佑子 (会員) 沓 (ホウ)
木、絵具、アクリル、紙、糸など



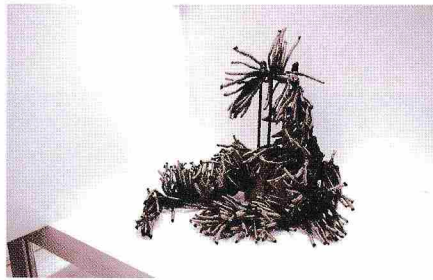
大谷美智子 (一般) 千本占地 (センボンシメジ)
生糸、テグス、タイシルク



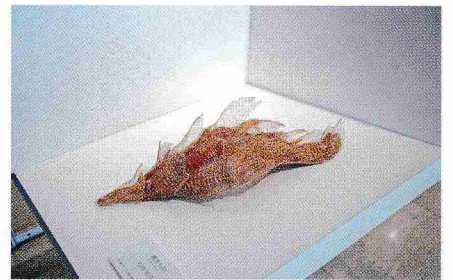
深尾雅子 (一般) 連綿と - Without A Pause
紙管、ゴム



加藤恵利 (会員) Bloom - 芽吹く -
木材、アクリル、ニス



五十嵐通代 (会員) To move
和紙、ステンレス



松岡明子 (一般) 貴きもの (トオキモノ)
糸 (絹、ウール、綿、麻)、銅線、真ちゅう線



渡辺雅子 (会員) 連鎖
ミクストメディア



田中 毅 (一般) 化石のまなこ



白野順子 (会員) 北欧の想い - オーロラ
シルク染色



谷口千恵子 (会員) 透ける・受けるかたち
グラフィート (フレスコ)、ガラス



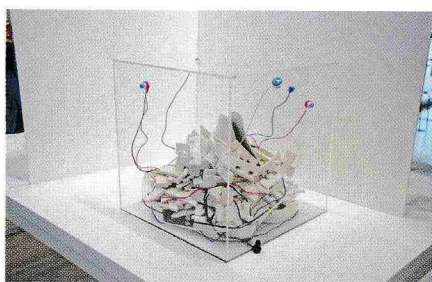
星 素子 (会員) DO! PUBLIC 素ことば (モトコトバ)
段ボール、アクリル



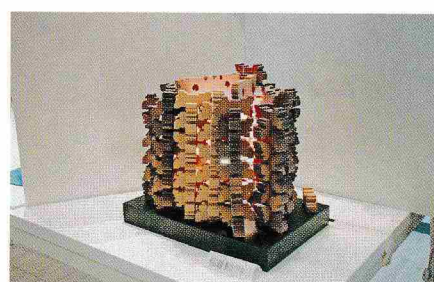
椎橋文子 (一般) パンドラの箱から
木、羊皮紙、金箔



野口真理 (会員) そらの窓
陶、粉漆、金属箔



吉田 実 (会員) 聴える???
セラミック、イヤホンなど



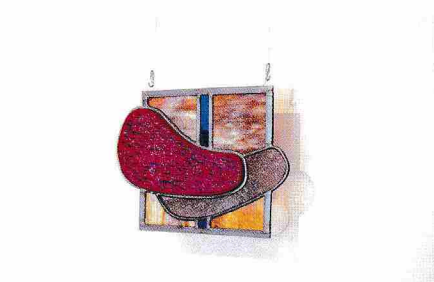
常松欽治 (一般) 窯宴灯 (ようえんとう)
せ器質



山崎和子 (会員) Time - A Time - B
布



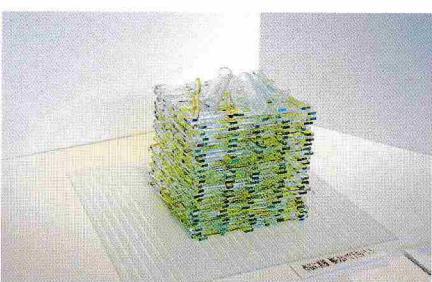
犬飼三千子 (会員) 木精っ子 (こだまっこ)
布、紙、発泡スチロール



安河内敦子 (会員) 浮遊する影
スタンドグラス、漆



神 まさこ (会員) 無題
陶器



平山健雄 (会員) 光を紡ぐ
ガラス



山崎輝子 (会員) 遠き島より (seeds)
皮革、木



中村弘子 (会員) 春
ガラス



鍵井保秀 (会員) Something we need (何か必要なもの)
ステンレスワイヤー、アルミワイヤー、アクリル、テグス、フィルム



ノグチミエコ (会員) 宇宙庭園
ガラス

BOX 展応募作品



可児友紀 (会員) ブーケ (bouquet)
ガラス



久野博美 (一般) ナニトリ
ウール、麻、ステンレス



甲田祐子 (一般) たまむし
フェルト



松田静心 (会員) 無
コルク



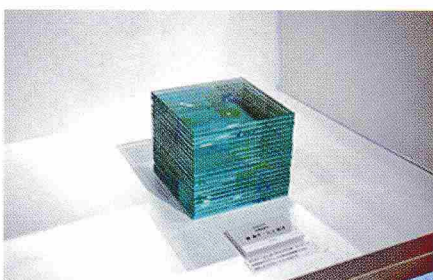
松本治子 (会員) 越境する陶片
タイル、金属



神 まさこ (会員) 無題
陶器



山本 誠 (会員)
故不破由晴の ORIGAMI 皿と山本誠の「生きものたち」



三上紀子 星 素子 (会員) 琉艶 (リュウエン)
ガラス



吉野ヨシ子 (会員) 芽吹
ステンレス、アルミ、銅

BOX展に参加して

美術家
日本建築美術工芸協会会員

久常久美子



私は、昭和15年頃には、世界のハッカの7割程を生産した町として有名であった北海道北見市で生まれました。現在では、質の良い玉ねぎの生産に力を入れている地区です。

北見市立西小学校に入学し、1年生から4年生までの間、担当された美術大学出身の女性教師の影響で、図画工作が大好きになりました。これが、私の作品作りの原点で有るような気がします。

その後、北見市から結婚のため、埼玉県大宮市に移り住みました。

大宮での生活の中で編み物の先生に個人指導を受けている過程で、既製の糸では物足りなさを感じ、好きな彩と糸で作品を創りたいと思うようになりました。

雑誌「毛糸だま」に東京テキスタイル研究所で、糸を創るクラスの様子が掲載されていたので、早速入学の手続きをとり、「糸を創る」クラスを初め「織」、「染色」、「糸からの動き（造形）」、「フェルト造形」の各クラスで学びました。在学中に体調を崩し、入退院を繰り返しながらも、日常生活の中に物創りに取り組むことを強く望むまでに回復し、作品創りも出来るようになってきました。

そのような時に、新作展の会場で、タイミング良く以前東京テキスタイル研究所で指導を受けていた時、発想や個性を大事にし、指導力の大きさを尊敬していた先生とお話をする機会がありました。

先生が各人の望んだ授業内容で年14回、少人数のグループ教室を開催していることを知りました。教室の場所は、私にとって交通の便も良く、数年ぶりに心躍る気持ちで、入会

させていただきました。

メンバーは、年齢・職業等それぞれ異なり、また驚くほど遠方からの方が切磋琢磨しながら共に学んでいました。

当たり前になりそうな日常生活で感動したことを探しながら、それらを表現するテーマを各人がピックアップし、五感を研ぎ澄ましながら発見する授業の面白さを感じています。

例えば私のように、生きることは死の営みの一部で有ることを体験した者として、今回の作品もそのことを題材としました。

「BOX展-繋ぐ」の数々の素晴らしい洗練された作品の中で賞を頂いたことは、私にとって正しく晴天の霹靂でした。

今まで、他の展示会場に見に来てくださっていた方々に、感謝の気持ちでBOX展の写真とメッセージを入れ、最優秀賞に選ばれたことを報告しました。すぐに、電話・メールや好きな詩人の一節を手紙に書いてのプレゼント、作品についての感想が届くなど、こんなに喜んでいただき改めて最優秀賞をいただいたことがうれしく、涙が止まりませんでした。

これからも小さな一歩を大切に「継続は力なり」、体調をコントロールしながら、活動していきます。

活動記録

1993年 東京テキスタイル研究所で学ぶ

94年 織展 / 東京テキスタイルギャラリー / 世田谷区

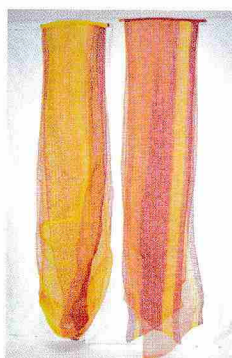
97年 糸からの動展 / 東京テキスタイルギャラリー / 世田谷区

2005年 回路展 / ギャラリーくぼた / 東京 京橋

12年 テキスタイルNOW展 / 世田谷美術館区民ギャラリー

14年～17年

テキスタイルNOW展 / 東京山脇ギャラリー / 千代田区



2013年 「朝陽」

早朝や夕方のウォーキングコースは、近くの堤防で晴れた日には遠方に富士山が見え「朝陽」が顔を出す。強烈に勢いよく昇る朝陽は丸く美しい。茜色に染まる夕陽。アッと言う間に山影に消える。



2013年 「和む」

受話器の向こうから聞こえてくる、遠い北海道の兄弟、友人、知人達からの懐かしい声、楽しい会話に心が和む。転居で馴染みの薄い環境に居た私にとっては、原動力でもあり活性剤になった。

2014年 「ぼたん雪」

月の光に照らされて、ひらひらと幾重にも重なり合って降ってきた、ぼたん雪深々と降っている光景を眺めていると桜吹雪の様に見えてきた。



2015年 「耳」

顔の左右に耳がある。人それぞれに、違った形があり、気になると色々な耳を探したくなった。また、面白がって自分の耳を鏡に映し創ってみました。

